

中学校版

道徳教育・キャリア教育

# 夢や志をはぐくむ教育

♡ 3つの意欲と3つの力をはぐくむ授業 ♡



さあ 出かけよう 自分さがしの旅へ 自分づくりの旅へ

地図はなくても 夢という コンパスがあるから

平成 22 年 3 月  
大阪府教育委員会

夢や志をはぐくむ教育(中学校版)

志

を

立

て

る

平成 22 年 3 月

大阪府教育委員会



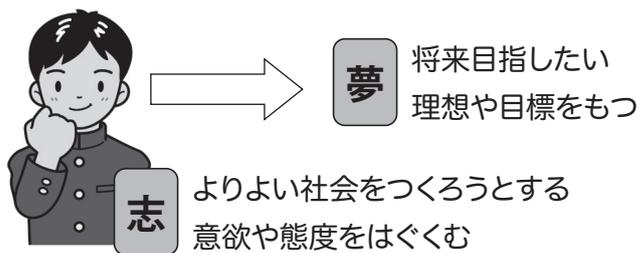
教育委員会事務局市町村教育室小中学校課 平成22年3月発行  
〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目 / TEL 06 (6941) 0351



# 第1章 夢や志をはぐくむ教育について

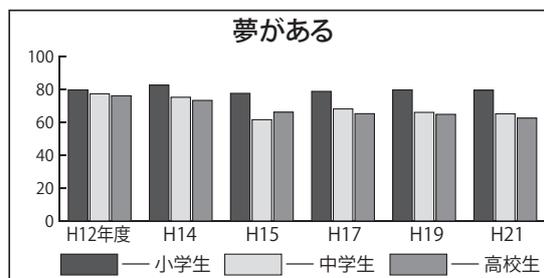
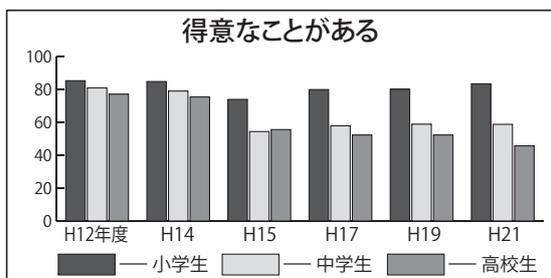
## 1. 夢や志をはぐくむ教育のねらい

夢や志をはぐくむ教育は、児童・生徒が充実した人生を送るために必要な理想や目標をもたせるとともに、社会人として必要な規範を身につけ、よりよい社会を創っていこうとする意欲や態度をはぐくむことをねらいにしています。



## 2. 夢や志をはぐくむ教育の必要性

平成21年度「小・中・高校生の意識と行動アンケート調査」によると、大阪の中・高校生は、平成12年と比べて「得意なことがある」、「夢がある」と答えた子どもの割合が、大幅に減少しています。このような結果から、子どもたちが自分に自信をもち、夢や希望をふくらませることができる教育を計画的に進めていくとともに、身近な大人たちが魅力ある社会をつくろうとしている姿を見せていく必要があると考えています。



小・中・高校生の意識と行動アンケート調査

## 3. 夢や志をはぐくむ教育で育成する3つの意欲と3つの力

児童・生徒が夢や目標を立て、その実現に向って着実にやり抜こうとする強い意志をもつとともに、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質や能力を身につけ、社会に主体的に参画していくことが大切であると考えています。

夢や志をはぐくむ教育では、児童・生徒が自分自身を見つめ、生き方を考える時間や、自分の将来を見据え、社会に参画していく仕掛けを系統的につくり出し、児童・生徒の3つの意欲と3つの力を育成します。



## (1) 養いたい3つの意欲

### ① 自分を高めようとする意欲

今ある自分をしっかりと見つめ、自己の向上を図るとともに、理想の実現を目指して、自己の人生を切り拓こうとする意欲を養います。

### ② 他と共に高まろうとする意欲

まわりの人の個性や立場を尊重し、他の人の意見を認め、協力的な関係を築こうとする意欲を養います。

### ③ 目標を立て、実現しようとする意志

夢や目標を立て、困難に直面してもすぐにあきらめないで、ねばり強くやり抜こうとする強い意志を養います。

## (2) 身につけさせたい3つの力

### ① 人とつながる力…「自他の理解能力」「コミュニケーション能力」※1

「自分をよく知る」ことから自己肯定感を、「友だちの思いを受け止める」ことから仲間との心の交流を図るなど、人とつながり生きていくために必要な能力をはぐくみます。

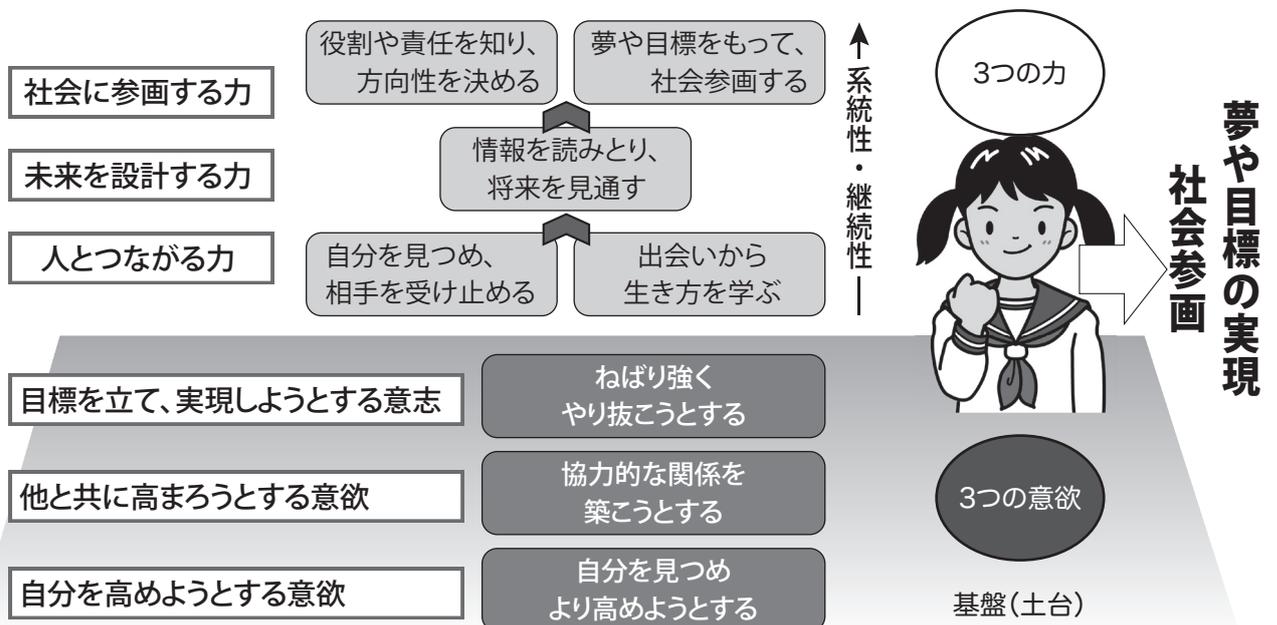
### ② 未来を設計する力…「情報収集・探索能力」「選択能力」「計画実行能力」※2

「情報を読みとる力」や「解釈し、編集する力」を養い、夢や目標の実現に向けて企画し、実行する能力をはぐくみます。

### ③ 社会に参画する力…「役割把握・認識能力」「職業理解能力」「課題解決能力」※3

「役割や責任」を知り、「職業理解等、自分の方向性を決める力」を養い、夢や目標の実現に向けて社会参画していく実行力をはぐくみます。

※1～3の「自他の理解能力」等は、「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引―児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てるために―」(平成18年11月文部科学省)における8つの能力



## 4. 夢や志をはぐくむ教育の内容(どのように進めていくか)

### (1) 夢や志をはぐくむ教育の内容<道徳教育とキャリア教育>

児童・生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて着実にやり抜こうとする意志や社会に主体的に参画しようとする意欲を「道徳教育」で、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質や能力を「キャリア教育」で育成します。



#### ◆夢や志をはぐくむ教育<キャリア教育>

総合的な学習の時間を中心に進めます。  
外部の「人」・「もの」・「情報」を効果的に取り込んだ「よのなか科」の手法を活用し、身近な問題や今日的な課題を考えさせることを通して、論理的に考えをまとめたり、コミュニケーションのスキルを高め、夢や志をもって社会に参画していくために必要な資質や能力を育成します。

基盤(土台)



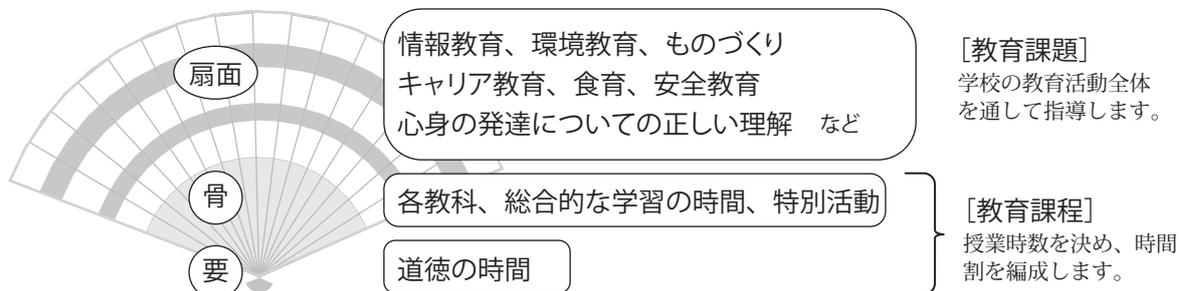
#### ◆夢や志をはぐくむ教育<道徳教育>

「道徳の時間」を要として、学校の教育活動全体を通して行います。  
要となる「道徳の時間」では、読み物資料を中心とした資料を活用し、道徳的な価値を自覚し、人間としてよりよい生き方を志向する心情や判断力、実現しようとする意欲や態度を育成します。

### 【学習指導要領上の位置づけ】

#### ◎ 道徳教育(第1章総則 第1の2)

- ・学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。



#### ◎ キャリア教育(第1章総則 第4の2 (4) 解説)

- ・中学校における進路指導については、生徒の勤労観・職業観を育てるキャリア教育の一環として重要な役割を果たすものであること、学ぶ意義の実感にもつながることなどを踏まえて指導を行う。
- ・進路指導は、特別活動の学級活動を中核としつつ、総合的な学習の時間や学校行事の勤労生産・奉仕的行事における職場体験活動などの進路にかかわる啓発的な体験活動及び個別指導としての進路相談を通じて、学校の教育活動全体を通じ、系統的、継続的に行う。

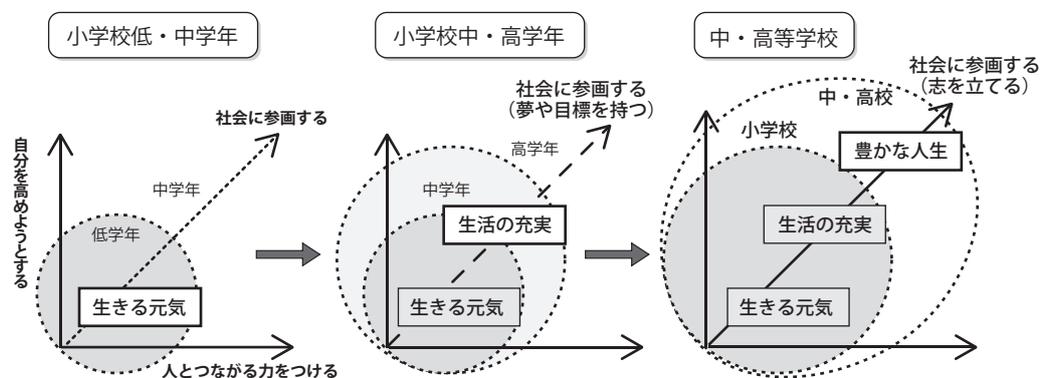
## (2) 夢や志をはぐくむ教育の指導の重点

夢や志をはぐくむ教育では、小学校から高等学校まで、児童・生徒の発達の段階を考慮し、各学年の学期ごとに、テーマを設定しています。

それぞれのテーマについて、道徳の時間や総合的な学習の時間に指導する教材を集め、2週間～1ヶ月程度のカリキュラムを作成しています。

### ① 児童・生徒の発達の段階を踏まえた指導

児童・生徒の実態や一人ひとりの発達の特徴を十分に踏まえるとともに、学年の段階に配慮した指導を行います。



### (小学校)

子どもたちが夢や志をもつための「3つの意欲と3つの力」の基礎となる価値観や、基礎的な能力を身につけさせます。

低学年では、家庭とも連携を図りながら基本的な生活習慣を確立させ、「生きる元気」を養います。また、高学年では様々な体験活動を通して、物事に挑戦することの大切さに気付かせるとともに、課題をやり遂げたときの達成感を味わわせ、「生活の充実」を図ります。

#### ア. 小学校低学年

この時期は、基本的な生活習慣を身につけさせ、規則的な行動を自ら進んでできるようにしていきます。また、よいことと悪いことの区別を理解させ、集団生活や社会のきまりについても確実に身につけるようにします。さらに、自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、興味・関心を高め、意欲と自信をはぐくみます。

#### イ. 小学校中学年

この時期は、自分の持ち味や役割を自覚させ、よい所を伸ばそうとする意識を高めるとともに、友だちのよさを認め、協同活動の仕方や仲間関係の在り方について考えられるようにします。

#### ウ. 小学校高学年

この時期は、共によりよく生きようとする力がついてくることから、集団の中で役立つ喜びや自分への自信をはぐくみ、未来への具体的な夢や目標がもてるようにします。

**(中学校)**

中学校では、小学校での学習をもとに、社会の一員としての自己の生き方を考えさせます。

特に社会とのかかわりを踏まえ、「社会とは、支え合う仕組みであること」を理解させるとともに、先人や現代社会の中で活躍する人の生き方を通して、人生の豊かさや人間としての生き方について考えさせます。

ア. 1年生

自分たちの身近な問題を通して、今の自分や社会をしっかりと見つめさせます。また、将来の夢や目標を考えさせます。

イ. 2年生

社会の様々な問題を考えさせたり、地域や社会で活躍する人の生き方を通して、人間としての在り方を考えさせます。また、将来の夢や目標を踏まえ、中学校卒業後の進路についても考えさせます。

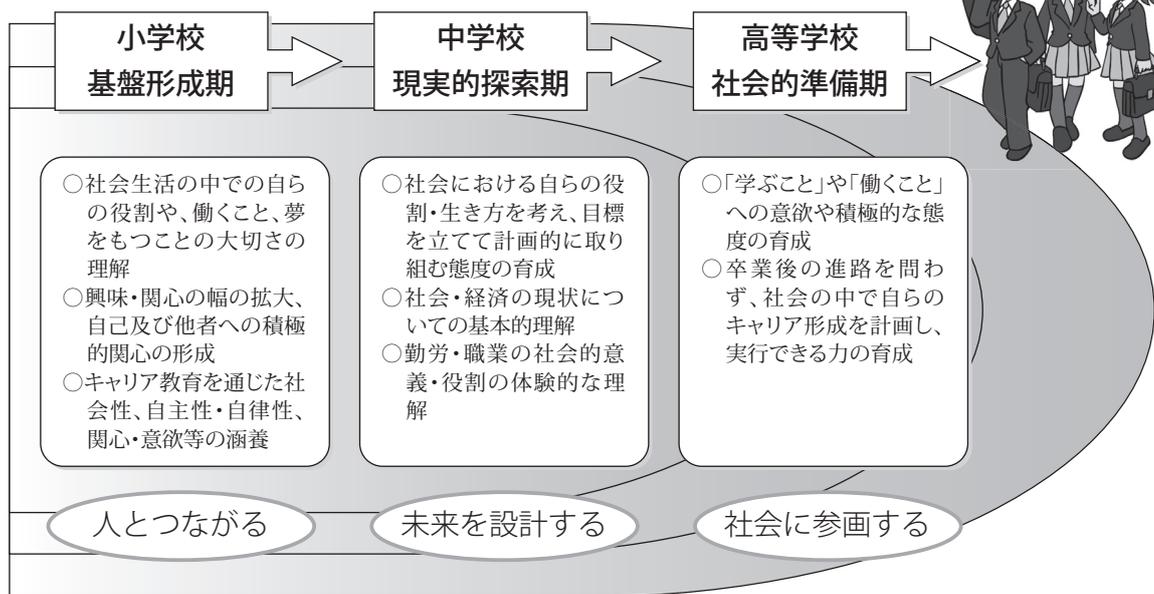
ウ. 3年生

1・2年生の学習をもとに、社会の一員としての自己の生き方を考えさせます。また、困難なことがあっても自分の夢や目標に向かって、努力をし続ける強い意志をはぐくみます。

**(高等学校)**

高等学校では、生徒が近い将来、社会人として自立していく段階であることを踏まえ、小・中学校での教育の基礎の上に、豊かな人間性や規範意識、マナー等を身につけ、志をもって、よき社会人として自立するとともに、社会についての理解や健全な批判力等を養い、社会の発展に寄与する態度をはぐくみます。

★ 小学校から高等学校までの発達段階(一般的な発達の特徴)と重点



【参考】今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（中央教育審議会 審議経過報告より）

## ② 夢や志をはぐくむ教育と道徳の時間、総合的な学習の時間、特別活動における指導

### ア. 道徳の時間

道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。

夢や志をはぐくむ教育では、「希望、努力」「進取の精神」「個性伸長」「社会参画」などといった内容を中心に読み物資料を活用した授業を行っています。



価値の自覚



人に親切にすることは大切だけど  
勇気がいるって感じた。



相手に負担をかけない親切が本当  
のやさしさだと思う。

### イ. 総合的な学習の時間

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身につけ、自己の生き方を考えることができるようにする。

夢や志をはぐくむ教育では、主に「よのなか科」の手法を取り入れたキャリア教育に関わる教材を活用して指導を行っています。



探究活動



ゴムに付加価値をつけると  
こんなに高く売れることに驚いた!



ゲストティーチャーの話を聞いて、  
もっといろいろ知りたいと思った。

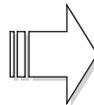
### ウ. 特別活動

望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

夢や志をはぐくむ教育では、学級活動（特に「学業と進路」）や学校行事等を通して、自分で選択・決定する機会や、他者とのかかわりを通して、目標を実現していく体験を積ませます。



集団活動



職業体験で、働くことの厳しさや  
助けあうことの大切さを感じた。



問題もあったけど、  
皆で話し合っ解決できた。

## 5. 夢や志をはぐくむ教育の指導計画

### (1) 小学校のカリキュラム (例)

	1・2年 基本的な生活習慣	3・4年 役割・協力	5・6年 自己有用感・責任
	基本的な生活習慣を身につけ、規則的な行動を自ら進んでできる。	自分の持ち味や役割を自覚するとともに、協同活動の仕方や仲間関係の在り方について考える。	集団の中で役立つ喜びや自分への自信をはぐくみ、夢や希望をもつ。
一学期	<u>自分を高める①</u> 規則正しい生活をする	<u>自分を高める③</u> よく考えて行動する	<u>まわりと高まる⑤</u> 相手の身になって考える
二学期	<u>自分を高める②</u> よいことと、悪いことの区別をし、行動する	<u>まわりと高まる③</u> 進んで働く	<u>まわりと高まる⑥</u> 役割を自覚する
	<u>まわりと高まる①</u> みんなと仲よくする	<u>まわりと高まる④</u> きまりの意味を考える	<u>まわりと高まる⑦</u> 社会のために働く
三学期	<u>まわりと高まる②</u> 約束やきまりを守る	<u>自分を高める④</u> 自分のよい所をのばす	<u>目標を立てる</u> 夢や希望をもつ

### (2) 中学校のカリキュラム (例)

	1年 自己理解・将来の目標	2年 社会の一員としての自覚	3年 自他の尊重・志を立てる
	身近な問題を通して、自分や社会を見つめる。また、将来の夢や目標を考えられるようにする。	地域や社会で活躍する人の生き方を通して、人間としての在り方を考えさせる。	社会の一員として自己の生き方を考えさせるとともに、夢や目標に向う強い意志をはぐくむ。
一学期	<u>規範意識をはぐくむ①</u> 公共の場所におけるふるまいを考える	<u>自分を高める②</u> 良心に基づいた行動について考える	<u>規範意識をはぐくむ②</u> 法やきまりの意義について理解する
二学期	<u>社会に参画する①</u> 大阪のよさ、日本の伝統について考える	<u>社会に参画する②</u> 働くことの意義や尊さを理解する	<u>社会に参画する④</u> 支え合う社会について考える
	<u>命をかがやかせる①</u> 生活習慣を見直す(生きる元気)	<u>社会に参画する③</u> 社会貢献について考える	<u>命をかがやかせる②</u> 豊かな人生について考える
三学期	<u>自分を高める①</u> 目標を立て、計画的に取り組む	<u>まわりと共に高まる①</u> よりよい集団や社会をつくる	<u>自分を高める③</u> 志を立て、人生を切り拓く

### (3) 中学校の指導教材（例）

#### ① 中学校・道徳教育

	1年 自己理解・将来の目標	2年 社会の一員としての自覚	3年 自他の尊重・志を立てる
一学期	①パブリック？ プライベート？	⑤足袋の季節	⑩二通の手紙
二学期	②さよなら、ホストファミリー	⑥「やべち」に学ぶ ⑦ぼくの仕事は便所そうじ	⑪明かりの下の燭台
	③古びた目覚まし時計	⑧あるレストランでのできごと	⑫エリカ～奇跡のいのち～
三学期	④無口なおじいさんベッポ	⑨二枚の写真	⑬月明かりで見送った夜汽車 ⑭風に立つライオン

#### ② 中学校・キャリア教育

	1年 自己理解・将来の目標	2年 社会の一員としての自覚	3年 自他の尊重・志を立てる
一学期	①マナーって何？ ②自転車放置問題を考える	⑥一人暮らしの シミュレーション ⑦携帯電話と付き合う方法	⑫中学生はもう大人？ まだ子ども？ (バルガー事件より) ⑬少年法を考える ～社会に対する責任～
二学期	③住んでいるまちの 付加価値を考えよう！	⑧お店屋さんを出店しよう！ ⑨職業の関連図をつくらう！	⑭あなたの人生観 ⑮臓器移植について考える ⑯「このとりのゆりかご」から “生きること”を考えよう
三学期	④人生曲線を描いてみる ⑤今までなかった仕事をつくる ～13歳のハローワーク～	⑩起業家に挑戦 ⑪市長になって 住みよいまちをつくらう！	⑰卒業論文作成

## 6. 夢や志をはぐくむ教育の指導方法

### (1) 道徳の時間の指導

#### ① 指導のねらいを決める

#### 指導のねらい

資料をよく読み、ねらいを設定します。生徒の実態や道徳の内容項目を踏まえたうえで、何を考えさせ、何を話し合わせるのかを決めます。

#### ② 資料の分析

読み物資料には様々な内容が盛り込まれているので、資料をよく読み込み、授業のねらいと照らし合わせて、生徒に考えさせたい中心的な場面を決め、発問を考えていきます。

#### 資料の分析

##### 1. 資料を読む……資料の何を読むのか？

ストーリー性のある資料



##### (1) ストーリーを読む

##### (2) 登場人物の心を読む（場面の心理分析ではいけません）

・読むべき心とは道徳的心情・道徳的判断力・道徳の実践意欲などです。

・資料を読む段階では、

道徳的心情 : 感情としてはどのような状態であるか。

道徳的判断力 : どのように考えているか。

道徳の実践意欲 : どうしたいのか。……………を読みます。

・心を読み取るときには、資料の中の副詞や副詞句的な言葉に気をつけます。

(例)「はればれとした顔で…」(p74)、「長いあいだじっとすわっていた。」(p80)

##### (3) 主として主人公の道徳的变化を読む。

・道徳的意識や行為がどのように（どこで）変化したのか、読みます。

(例)「便所そうじは、やっているときさすがにいやになった。」

→「かなづちでぶんなぐられたぐらいのショックを受けた。」(p55)

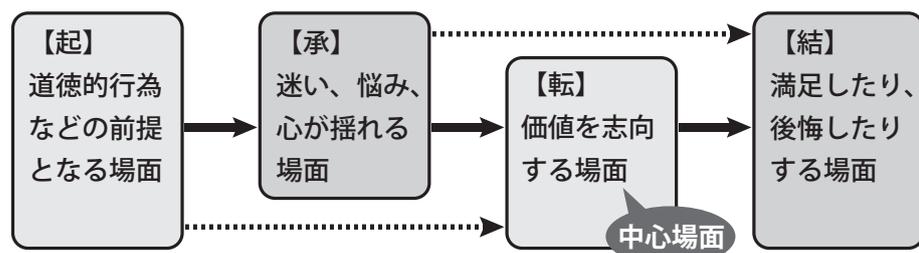
##### (4) 人間としての在り方、生き方の問題を読む(他人事ではなく、わが事として読む)

・取り上げる道徳的な価値と一般的な人間の姿とを考えてみます。

(例)元さんが考えさせられたことはどんなことだったのでしょうか(p74)

##### 2. 場面に分ける

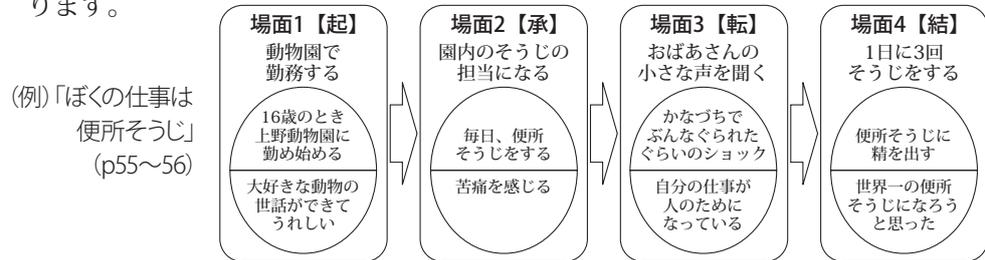
・紙芝居で資料を提示するとしたら何枚の絵を用意するかを考えてみます。



※ すべての資料が「起・承・転・結」になっているとは限りません。

### 3. 中心的な場面を考える

- ・ 道徳的変化の起こる場面（転）か、その直後の場面（結）になることが多くなります。生徒に熟考させ、様々な意見を引き出し、ねらいに迫っていくところになります。



### 4. 授業の中で最も深く考えさせる発問（中心的な発問）を考える

- ・ 中心的な場面で、生徒への発問を考えます。
- ・ 中心的な発問は本時のねらいと一致させます。また、行為を問うのではなく、行動のもととなる心のありよう（内面）を問います。
  - 「主人公はどんな気持ちだったでしょう？」 → 【道徳的心情】
  - 「主人公はどう考えたでしょう？」 → 【道徳的判断力】
  - 「主人公はどうしようと思ったのでしょうか？」 → 【道徳的实践意欲・態度】

### 5. 中心発問に対する「予想される子どもの答え」を考える

#### ③ 道徳の時間の指導のポイント

生徒が登場人物に自分を重ね、自分の体験を通して登場人物の生き方を考え語り合う授業を創造していくことが大切です。登場人物の気持ちを類推するだけの授業や資料を読解させる授業にならないように注意します。

## 指導の流れ

#### 1. 導入では生徒の心をつかむ

生徒の興味、関心を高め、学習への意欲を喚起させます。

#### 2. 資料は教師が読む

生徒に場面をしっかりと理解させます。台詞の読み方にも注意します。

#### 3. 授業に「山」をつくる

その時間のねらいをはっきりとさせます。

#### 4. いかに発問するかを考える

どう問うかが大切です。発問の仕方の工夫が求められます。

どのような文言で発問すれば深く考えさせることができるのかを熟考します。

#### 5. 生徒の発言を受けとめる力が教師に求められる

生徒の発言内容にこだわります。用意した発問だけでなく、補助発問を使い、考えを深めていくことが大切です。

#### 6. 生徒どうしの話し合いを大切にする

一人ひとりが自分の考えや意見を発表するだけではなく、他人の意見やその根拠も聞き、自分の意見を見直したり、再確認できるような話し合いができるように留意します。

#### 7. 終末では、学んだことを深く心に留めたり、今後の課題を考えられるよう工夫する

生徒が学習を通して分かったことを確かめたり、学んだことをさらに深く心に留められるよう工夫します。

#### 8. 板書の時間は、50分中、5～8分程度

生徒の発言に直接反応する時間を大切にします。

板書は生徒の意見をまとめ、思考の流れを整理したり、違いや多様さを対比的、構造的に示す工夫、中心部分を浮き出させる工夫をします。



## (2) 「よのなか科」の手法を活用したキャリア教育の指導

体験的な活動等を通して、生徒が自分を見つめるとともに、相手の思いを受け止め、自ら考え行動できる力を養うため、問題解決を通じたワークショップ型のコミュニケーション活動を展開します。また、人と人とをつなぐ視点（コーディネーション）や、協力・連携する効果（コラボレーション）などを大事にし、生き方につなげる設定にしましょう。

### ① 「よのなか科」の手法とは

生徒が、自らの人生を自分で考え、切り拓いていくために、生き方に関する様々な価値観をもつ大人とかかわりをもたせ、外部の「人」・「もの」・「情報」を効果的にフル活用したネットワーク型の授業実践のことで、授業で専門家に説明してもらい、生徒に様々な大人像、仕事観を提供できることは大きなメリットです。ゲストには、成功話を講演してもらうのではなく、ともに学ぶ姿を見せてもらうことがポイントです。

## 4つのポイント

### 「よのなか科」の手法の4つのポイント

1 身近な社会(よのなか)の中で、「正解がひとつでないテーマ」を取り上げて、「ものごとの本質」を考えさせる授業

2 自分で考えさせ、グループで共有しながら、自分なりの答えを固める



3 生徒に刺激を与える存在として、専門家をゲストに登場させるなど、意見交流の場を設定し、身近な「ナナメの関係」の大人が授業に参画

4 思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業手法の推進

- ロールプレイング
- シミュレーション
- ディベート
- ブレインストーミング（一人で考え、グループで共有）
- プレゼンテーション（コミュニケーション） など



## ② 押さえておきたい手法のポイント

### 手法の ポイント

#### 1. 正解のない問題に取り組む

たった一つの正解でなく、自分の納得いく答え（納得解）を導く技術を鍛えます。このとき、『一人で考える⇒ペアやグループで共有する⇒振り返る⇒生活へつなげる・生かす』という場の設定が重要になります。また、正解がないのですから、とにかくたくさん考えさせ、出された意見に対して、批判しないで、共有させることが大事です。共有しながら、「なるほど」と思った意見は、自分の意見に取り入れていくこともよいことを伝えましょう。

#### 2. 大人と子どもと一緒に学ぶ

「全ての参観者が、授業の参加者」となり、「生徒の中に入ってサポート役」に徹することで、生徒が「教師や親と異なる大人」の姿や意見から新たな視点で学ぶ場を設定します。



#### 3. 思考技術を身につける～特徴的な手法

##### 《ブレインストーミング》

たくさんのアイデアを自由に引き出すための手法です。ポイントは以下のとおりです。

- ・質より量
- ・アイデアの批判をしない。どのような思いつきでもかまわない
- ・アイデアどうしを組み合わせ、改善したり、発展させる

##### 《ディベート》

「賛成反対両方の立場で考えてみる」というスタンスに立つことによって、物事を一面からのみでなく、いろいろな角度や立場から見たり、考えたりする習慣をつけさせるのが目的です。実践のポイントは以下のとおりです。

- ・はじめに自分の意見を書く
- ・次に自分の意見とは反対の立場に立って意見を書く

##### 《プレゼンテーション》

聞き手に対して自分の意見や意志を正確に伝え、納得してもらうためのものです。重要な視点は以下の3つです。伝える内容を丁寧に組み立てる必要があり、結論や言いたいことを先に述べ、あとからその理由や背景を伝えるとよいでしょう。

- ・内容：聞き手にとって分かりやすく、魅力的な内容であること
- ・伝え方：聞き手が興味を引き、聞き入るような話し方や伝え方
- ・態度：プレゼンターは気持ちを込め、正確に伝えること

③ めざすのは、「情報編集力の育成」

情報編集力とは、生徒が培ってきた力や、情報を自分の視点で編集し、自分の結論や考えを導き出す力のことです。正解をみつけることだけに重きをおいていません。テーマについて、自分で考え、仲間の意見を聞いたり、参加している大人やゲストからアドバイスを受けてりしながら、自分の納得のいく答（納得解）を見つけ出すことを目標とします。



④ ワークシートの活用に当たって

「よのなか科」の手法を活用したワークシートは、次の流れで進めていきます。

指導の  
流れ

(ア) 導入～ウォーミングアップ

(イ) ケーススタディを与えて、まず自分で考えさせる。次にグループで（大人も混ぜて）討議します。

リテラシー（知的技術）として、ロールプレイ、シミュレーション、ブレーンストーミング、ディベートなどを用い、最後にプレゼンテーション（コミュニケーション）を実施し、自分の考えを發表します。

(ウ) ゲストの登場もしくは（イ）の深化

(エ) 最後に、自分の考えを「記述」させる。

本書の各ワークシートの最後に、今日の授業の振り返りとして、200字程度で自分の考えをまとめ、論理的に考える場の設定をしています。

振り返りの  
ポイント

「200字程度で今日の振り返り」を記入させる時のポイント

その1 文章は段落に分けて書くと、伝わりやすくなります。

- ・ 第一段落……問題のテーマについて結論（たとえば、「賛成」か「反対」等）を書きます。
- ・ 第二段落以降……その理由や理由を支える事実や経験を書きます。

その2 理由を述べる際、下記のどちらかを使うことで、論理的説明につなげます。

- ・ なぜなら～からです。たとえば～。
- ・ 理由は二つあります。一つは、～。もう一つは、～。（二点以上でもよい）

⑤ 指導に当たって

指導に当たって、「一人ひとりの生徒の立場」に十分配慮して行いましょう。また、教員のねらいが、体験的な学習を通して、生徒の考察から引き出されているか、「振り返り」を大事にしましょう。